

(別記第2号様式)

令和3年度 協議会評価調書(案)

【協議会評価】

協議会評価	総合評価	個別評価項目	個別評価
A B C		協議会評価に対する対応の適切性	① b c
		博物館の自己点検評価の適切性	a ② c
		ガバナンスの発揮度	a ③ c
		事業運営費の適切性	a ④ c

【協議会評価意見】

【評価と評価書の記載方法について】

◎評価できる点

- ・(令和2年度協議会評価調書の意見を踏まえ)総合評価や個別評価の基準を変えた点(Bを概ねできていると評価することにした点)は高く評価できる。
- ・とても体系的な評価になり、わかりやすい自己点検評価調書になっている。「当初計画になかった項目」を設けたのは良いと思う。
- ・(協議会の指摘に対応して)変更後、初年度なので、苦労されたと思う。なお、評価時期が繁忙期に当たると思うが、評価を次年度に反映させるためには、無理をして今の時期に行うなど、積極性と向上の報告が明らかに見え評価できる。
- ・全体的にそれぞれしっかり記載しているとの印象を受ける。

◎改善・検討を要する点

- ・評価を記入しやすい項目に変更していくことも検討されたい。
- ・評価調書の項目名と実際の事業の内容が合っていないもの(「7 施設及び周辺環境の整備」とオリジナルグッズ開発など)が見受けられる。来年度に見直していただきたい。
- ・第二次自己評価でCとなった項目については、次年度の課題として継続するのか、あるいはやり方を変えるのかという疑問が残る。
- ・コロナ禍を、プラスに利用した活動はあるか。例えば、危機管理システムの見直しなどの良い機会ではなかったか。
- ・コロナ禍によるマイナス面は、予測可能、予測不可能のケースがあると思われるが、その予測と実施をどう評価したかを記載していただきたい。

【ガバナンスの発揮度について】

- ・(個別評価項目「ガバナンスの発揮度」について)博物館内のガバナンスは、自己点検評価書の整理と活用により、見える化が進み高く評価できる。しかし博物館外(例えば道庁との関係)などは、読み取りにくく、課題があると思われる。
- ・記入者、担当者の名前が明示されているのでわかりやすい。

【事業運営費の適切性について】

- ・「執行」を除き、年度比較予算書を提示していただいたのは、相当な努力があったと思われ、高く評価できる。
- ・(個別評価項目「事業運営費の適切性」について)提示された資料には実績額(決算額)が示されていないので、事業運営費の適切性は評価できない。評価をしなければならぬ項目として残すのであれば、評価のための素材が必要である。
- ・予算執行されなかった残額は、どのように処理されるのか。実績額とその成果の関係が見えない。事業の達成度と予算の関係がわからない。
- ・予算については、評価のための見易さの工夫が必要である。運営費に対する執行の適切性なのか、予算組み(配分)の適切性なのかを明確にいただきたい。

【改善や検討を要する事業】

- ・(中期目標・計画番号5)障害者対策について、博物館としての指針(ポリシー)は作られているのか。視覚障害者への対応は十分な配慮が必要であり、新しい動きも多い。
- ・(中期目標・計画番号7)理由が読み取れないものとして、施設のハード面の改修などが実施されなかった点が挙げられる。本庁の事業になるなど、理由が読み取れる書き振りが必要か。
- ・(中期目標・計画番号7)周辺施設に百年記念塔の解体問題は入るのか。担当部署ではないが、大きく影響を受けること、注目のことなので、経緯や現状がわかる書き方が望ましい。
- ・(中期目標・計画番号7)新札幌駅のバスターミナルがわかりづらい。北海道博物館への公共交通機関によるアクセス向上について検討が必要である。
- ・(中期目標・計画番号7)崩れたエントランスのタイルを整備するなど、利用者の安全性の観点で、周辺整備・改修に取り組むことが必要である。
- ・(中期目標・計画番号13)外来研究員の受け入れに関しては、何年も検討が持ち越されている。課題を設定し直すなど、何らかの検討が必要である。
- ・(中期目標・計画番号14)学会参加への不振とあるが、リモートでより活性化したことはないのか。学会発表以外の口頭発表や講演会、セミナー発表などの業績も、数値化し、アウトリーチの成果を正しく評価した方がよい。

以上の意見が協議会委員より出され、それらの意見を反映し、個別評価項目に照らし、評点をつけた。結果、総合的にはB評価が妥当であるとされ、総合評価はBとした。